

全国児童館おりがみ作品展 10月28日～11月19日 (こどもの城ギャラリー)

みんなの宝

全国の児童館・児童センターに集う子どもたちが作った26作品を展示

「全国児童館おりがみ作品展」が、10月28日から(こどもの城)ギャラリーで開催されます(11月19日まで、月曜日休館)。テーマは“みんなの宝”——それぞれにいろいろな宝があると思いますが、みんなで考えた“宝”を折り紙で表現した作品が展示されます。北は北海道から南は鹿児島県まで全国各地の児童館・児童センターに集う子どもたちが作った26個の宝(作品)が集まりました。

作品作りに取り組み、上里町立長崎児童館(埼玉県)と山口県児童センターの活動を取材しました。

みんなの顔が違いうように折り紙にも個性

「みんなの宝って何？」と長崎児童館の児童厚生員の嶋崎信子さん。放課後児童クラブの子どもたちが集まってきました。子どもたちは「なにかなあ」と考えます。しばらくすると、几のち「友だち」「ぬいぐるみ」「地球」「ねこ」——子どもたちの「宝物」がいろいろと飛び出します。一人ひとりの思いがこもった宝物です。「一つの作品にするんだけど、どうしようかな?」もう一度考えます。みんなの顔を大切にしながら、一つの作品にするにはどうすればいいか——新しい課題です。「いろいろな宝物があっても、世界中の人がなかよくしなければ、宝のもちぐさにならなくなってしまいませんか?」と嶋崎さん。さらに考えます。「ここにいるみんなが、自分」を折って世界地図の上でつなぐというのはどうだろうか? 子どもたちの表情はぱっと明るくなりました。笑みが入ったようです。さっそく、折り紙で自分を作る練習。講師は、日本折紙協会講師の真実美智さん。折り紙を半分に切った長方形のものを3枚と少し小さい折り紙1枚の計4枚で作る「人」です。まずは、顔(頭)。小さな折り紙を使って折っていきます。ちょっとした折り方の違いで、顔の形や表情が違ってきます。「一人ひとりの顔が違いうように、折った顔もみんな違います」と真実美さん。子どもたちが作った顔は、一つひとつが個性。周りの人が作った顔と自分が作った顔を比べて、表情の違いを楽しんでいました。



「今の3年生が1年生のとき、女の子が多かったので折り紙を取り上げたら、子どもたちはこころまくなって……。本をみながら顔面を折る折り紙作品を作りました。2年生になったとき、『全国児童館おりがみ作品展』のことを知って、聞いていたら『やってみよう』というので、新年初めで出品しました。作品作りをとおして、指導する職員と子どもたちの間にもう一つの絆が生まれました。

1年生のときから折り紙に親しんでいた今の3年生は、みんな手先が器用。乳幼児向けプログラム「おはなしちゃっちゃ!」のお知らせメッセージカードには、子どもたちに手伝ってもらった折り紙を使っています。折り紙が折れるということで、子どもたちがそれぞれに自信を持ってくれれば……。日常の活動のなかでも折り紙遊びに取り組みんでいます。

上里町立長崎児童館 上里町は埼玉県の最北端に位置し、2つの川を挟んで群馬県と隣接しています。5つの小学校があり、それぞれで学びに卒業後が異なります。長崎児童館には、児童クラブ室、保育遊戯室、図書室、創作活動室などがあります。「長崎児童館放課後児童クラブ」のメンバーは43人(1～3年生)で、長崎小学校の4年生の子どもたち50名が13か所開いています。電話：0485-35-3545



上里町立長崎児童館(埼玉県)

山口県児童センター



山口県児童センター



山口県の「宝物」を全国の人に知ってもらおうと、取り上げる題材は「静養橋」。山口県東部の萩市にある長さ約200mの5連の木造アーチ橋。たくさんの観光客が訪れます。山口市周辺の子どもたちも、遠足・社会見学、夏の花火大会などで一度は訪れたことがある、思い出のある場所です。

静養橋で、花火大会の思い出を折り紙で表現することになりました。静土のほごる名勝の地で、楽しいひとときを家族や友だちと過ごした、「思い出」という日に思い出の宝物を折り紙であらわします。花火を見ていたたくさんの人は、一つひとつの形が異なるだけでなく、込められた思いも異なるのです。

折り紙作品作りは、「音楽クラブ(幼稚園の年中・年少児24人)」、「手作りクラブ(小1・2年生16人)」、「わくわくどきどきクラブ(小3～6年生6人)の子どもたちと「山口県児童センター母親クラブ」のお母さん80人が中心となって、児童センターに遊びに来た人たちが加わって行われています。制作場所が人通りの多い玄関ロビーなので、たくさんの人の目にさらされます。スタッフも「いっしょに作りませんか?」と呼びかけるので、だれかが気軽に参加して折り紙を折っていきます。取材に訪れた日も、いつの間にか人数が増えて、あちこちで折り紙を折っている姿が見られました。

出品するのは、今年が初回目。「一度は出品してみたい」と思っていた児童厚生員の佐々木希子さんが、「(こどもの城)で見た折紙の作りかたを参考にしている作品を参考に、自分たちの手で作って出品しよう」と思い立ち、さっそく行動。折紙の「おいでませ山口へ」に続いて、今年も静養橋の花火大会をテーマにした作品を出品することになりました。

「児童センターにあるものを使って、作っています」と佐々木さん。研修会を開いたときに使った紙や鉛筆の筒を再利用したり、新聞紙を利用したり、使う素材にはさまざまな工夫とこだわりがあります。折り紙の紙は、白い紙をアクリル絵の具で色づけたもの。絵筆のかすれ、色のぬりまみれによる変化などを生かした用紙。造形遊びをしたときの残りが使われています。色がぬられた紙は、人や橋のパーツなど折るものに合わせて、それぞれの大きさにカットします。同じ色・がらのものは2つと取りません。さらに、折ったときにうらの白地がでないように、張りあわせてあります。

「紙を2枚重ねると、しっかりと折って、折ったときにすっぴんした感じがでるんです」と佐々木さん。形だけでなく、質感や匂いにもこだわります。「同じ色でも紙の質の厚さや重さ、手ざわりも違ってきます。紙の質が厚かったところは、こやが合ったりします。身近な造形素材である紙の性質(色、質感、ざわりなど)を生かして、折る楽しさだけでなく、紙そのものを生かす作品にもなっています。

山口県児童センター 山口市はほぼ中央にある「後新百年記念公園」のなかから、南側には上里郡静養橋、テニスコート、山口県スポーツ文化センターなどのスポーツ施設が集まっています。児童センターは、県民センター通り(一部2階建て)で、延べ床面積は約2,300㎡、大・小のホールほか、パソコンルーム、図書室、工作室、遊戯室、集客ホールなどがあります。電話：0839-23-4833

「全国児童館おりがみ作品展」 夢城児童館・児童センター

壁面作品＝札幌市平岡あどり児童会館／同、ひのまる児童会館／支庁庁舎児童館(若手科)／水戸市ふれあいの館／土屋町立長崎児童館／川崎市青葉区こども文化センター／新潟市児童センター／金沢市朝日児童館／三島市生涯学習センター一内児童センター(静岡県)／京都市大宮児童館／スリムこどもの城
立休作品＝札幌市江利町はり児童会館／同、中の島児童会館／福島市東児童センター／栃木県子ども総合科学館／北沢区鶴ヶ丘児童館(東京都)／石川県立中央児童会館／同、小松児童会館／神戸市立種谷児童館／同、新潟児童館／新潟市立北児童センター(兵庫県)／山口県児童センター／今治市白方児童館(愛媛県)／川崎児童館(佐賀県)／自治市西児童館(熊本県)／キッズランド児童館(鹿児島県)

“思い出”という見えない宝物を作品に

山口県の「宝物」を全国の人に知ってもらおうと、取り上げる題材は「静養橋」。山口県東部の萩市にある長さ約200mの5連の木造アーチ橋。たくさんの観光客が訪れます。山口市周辺の子どもたちも、遠足・社会見学、夏の花火大会などで一度は訪れたことがある、思い出のある場所です。

静養橋で、花火大会の思い出を折り紙で表現することになりました。静土のほごる名勝の地で、楽しいひとときを家族や友だちと過ごした、「思い出」という日に思い出の宝物を折り紙であらわします。花火を見ていたたくさんの人は、一つひとつの形が異なるだけでなく、込められた思いも異なるのです。

折り紙作品作りは、「音楽クラブ(幼稚園の年中・年少児24人)」、「手作りクラブ(小1・2年生16人)」、「わくわくどきどきクラブ(小3～6年生6人)の子どもたちと「山口県児童センター母親クラブ」のお母さん80人が中心となって、児童センターに遊びに来た人たちが加わって行われています。制作場所が人通りの多い玄関ロビーなので、たくさんの人の目にさらされます。スタッフも「いっしょに作りませんか?」と呼びかけるので、だれかが気軽に参加して折り紙を折っていきます。取材に訪れた日も、いつの間にか人数が増えて、あちこちで折り紙を折っている姿が見られました。

出品するのは、今年が初回目。「一度は出品してみたい」と思っていた児童厚生員の佐々木希子さんが、「(こどもの城)で見た折紙の作りかたを参考にしている作品を参考に、自分たちの手で作って出品しよう」と思い立ち、さっそく行動。折紙の「おいでませ山口へ」に続いて、今年も静養橋の花火大会をテーマにした作品を出品することになりました。

「児童センターにあるものを使って、作っています」と佐々木さん。研修会を開いたときに使った紙や鉛筆の筒を再利用したり、新聞紙を利用したり、使う素材にはさまざまな工夫とこだわりがあります。折り紙の紙は、白い紙をアクリル絵の具で色づけたもの。絵筆のかすれ、色のぬりまみれによる変化などを生かした用紙。造形遊びをしたときの残りが使われています。色がぬられた紙は、人や橋のパーツなど折るものに合わせて、それぞれの大きさにカットします。同じ色・がらのものは2つと取りません。さらに、折ったときにうらの白地がでないように、張りあわせてあります。

「紙を2枚重ねると、しっかりと折って、折ったときにすっぴんした感じがでるんです」と佐々木さん。形だけでなく、質感や匂いにもこだわります。「同じ色でも紙の質の厚さや重さ、手ざわりも違ってきます。紙の質が厚かったところは、こやが合ったりします。身近な造形素材である紙の性質(色、質感、ざわりなど)を生かして、折る楽しさだけでなく、紙そのものを生かす作品にもなっています。

山口県児童センター 山口市はほぼ中央にある「後新百年記念公園」のなかから、南側には上里郡静養橋、テニスコート、山口県スポーツ文化センターなどのスポーツ施設が集まっています。児童センターは、県民センター通り(一部2階建て)で、延べ床面積は約2,300㎡、大・小のホールほか、パソコンルーム、図書室、工作室、遊戯室、集客ホールなどがあります。電話：0839-23-4833

「おりがみカーニバル」も

土・日曜日、祝日には折り紙のワークショップ

「全国児童館おりがみ作品展」にあわせて、「おりがみカーニバル」(日本折紙協会と(こどもの城)の共催)が10月28日～11月19日にギャラリーで開催されます。

日本折紙協会会員のみなさんが工夫をこらした作品を多数展示。さまざまな折り紙作品にふれることができます。また、期間中の土・日曜日、祝日には、だれでも参加できる「折り紙のワークショップ」も行われます。